開催報告書

- 企画名：Fukushima GP Impact Forum
- 日時：2024年3月29日, 30日
- 主催：福島県立医科大学 総合内科・総合診療医センター
  共催：福島県　後援：福島県教育委員会
  企画協力：GP Impact Hub（一般社団法人MATSURI）
- 作成者名: 山地翔太 / 橋本麻里奈（一般社団法人MATSURI）
  菅家智史（福島県立医科大学 総合内科・総合診療医センター）

1.企画概要（背景・目的）

背景として、若手医師は卒業大学や出身地の都道府県に定着する傾向が強い中、福島県内で総合診療医を増やすには、福島県の総合診療・地域医療の魅力を広く認知させる必要がある。福島県には豊富な実績と全国に誇れる取り組みがあるが、他の地域との比較機会や、ブランディングが乏しい現状があった。その中で、福島県の総合診療・地域医療を「東北No.1」「全国トップレベル」として認知させることを目的とし、現場見学や医師との交流を通じて、参加者が将来像を具体的に描ける機会を提供した。また福島県内の学生と全国の志を同じくする仲間とのネットワークを構築し、さらに福島県で働くことの魅力を発信し、人材確保と定着促進につなげることを目指した。

2. イベント概要

■ スケジュール

<u>2025年3月29日（土）：プレイベント（病院見学ツアー）</u>
10:30-11:30 開会/オリエンテーション/アイスブレイク（郡山商工会議所）
11:30-12:30 昼食
12:30-14:00 各医療施設へ移動（①会津医療センター　②二本松病院　③かしま病院）
14:00-16:30 各医療施設にて総合診療医セッション
16:30-18:00 宿泊地（磐梯熱海温泉 緑風苑）へ移動、チェックイン
18:30-19:30 夕食
20:30-22:00 ナイトセッション：1日の振り返り / 総合診療医セッションの経験共有
<u>3月30日（日）：メインイベント（フォーラム）</u>
10:00-10:30 受付（福島県立医科大学 駅前キャンパス）
10:30-11:00 開会の挨拶『総合診療医について』
11:00-11:30 アイスブレイクセッション ”ペーパータワー”
11:30-12:30 講演① 山中克郎先生『これまでの歩みと今、そして未来』
12:30-13:15 昼食・休憩
13:15-14:35 ワーク①：山地翔太先生 症例提示と1シーン『自分なら、どうする？』
14:45-15:15 ワーク②：『今と未来の自分に向けた対話のワーク』
15:15-15:45 グループシェア・福島県の関係者からのフィードバック

15:55-16:35 パネルディスカッション『私にとっての福島と総合診療』
16:35-17:00 閉会の挨拶

■ 登壇者/協力者（敬称略）

・山中 克郎（諏訪中央病院／福島県立医科大学会津医療センター 特任教授）
・奥 知久（おく内科・在宅クリニック院長）
・持丸 愛弥伽（福島県 総合診療医）
・濱口 杉大（総合内科・総合診療医センター長）
・橋谷田 敬（福島県保健福祉部）
・國島 郁行（福島県保健福祉部）
・石井 敦（かしま病院 / 院長）
・藤原 学（かしま病院 / 総合診療科部長）
・渡邉 聡子（かしま病院 / 総合診療科医長）
・高澤 奈緒美（二本松病院 / 内科医長）
・福田 國悠（二本松病院 / 医師）
・石川 拓磨（二本松病院 / 医師）
・小野 正博（会津医療センター / 福島県立宮下病院 副院長）
・佐竹 秀一（会津医療センター / 福島県立南会津病院 外科部長）
・森 冬人(会津医療センター/ 喜多方市地域・家庭医療センターほっときらり副センター長)

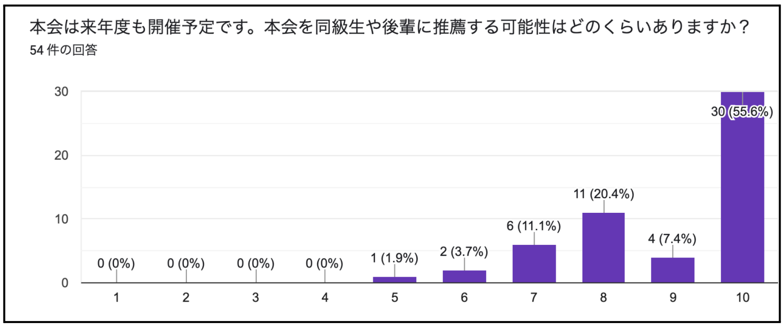
3. 成果と評価

■ 参加人数：計**60**名　(応募時：72名)

人数（人）	県内高校生	県外医学生	県内医学生	県内医師	県外医師	計
プレイベント(3/29)	15	14				29
Forumのみ(3/30)	8	17	1	1	4	31
全体	23	31	1	1	4	60

■ 事後アンケート結果：**54**人回答

・参加満足度（5段階）：5：約79.63%　4：約20.37%
・NPS（Net Promoter Score 顧客推奨度）：57.41



■ 参加者の声

・『医学部生や、先生ということで、堅苦しい会かと思っていたけど、本当に話しやすくて、暖かい場で、参加して本当に良かったと思いました。もともと名前すら聞いたことはなかったけれども、進路に総合診療科というのがあがってきたな、その大きなきっかけになりました。』(高校生)
・『医師の方や医学生の方、また高校生の方など初対面だけど互いに医療への熱い思いがある方とお話しできて貴重な機会になり、医師になりたいと思う気持ちが強くなった』(高校生)
・『医学部に行きたいという思いがすごく強くなり、たくさんの学びがありました。親身になって話を聞いてくださり、応援していただいて嬉しかったです。』(高校生)
・『今日出会った医学部生の先輩方や先生方と話したり、はなしを聞いたりすることを通して、自身の医師への目的意識を確固たるものにすることができた』(高校生)
・『素晴らしすぎる会すぎて、全ての方に参加してほしいと思いました！何かやりたいと思っているけど行動に出せてない方や、進路がまだ決まっていない高校生などに参加してほしいです！総合診療の良さがこれでもかというほど伝わってきました！来年度は自分の周りの人誘って行きます！！』(医学生)
・『交通費が出るのが参加を決める最後の一押しでした！楽しかったです！ほんとうにありがとうございました！』(医学生)
・「とても素晴らしい会でした。強いて言えば、震災や原発など福島ならではの地域課題について深く触れる機会が欲しかったです。』

4. 考察と今後の展望

■ 考察

1. 参加者構成と規模
県内高校生が23名(38%)、県外医学生が31名(52%)と、県内高校生、県外医学生の参加が多く認められた。医学部を志望する高校生にとって医師との濃厚な接点を持つ機会は少なく一定の開催ニーズがあると考えられる。県外医学生にとって、本企画での交通費補助が参加ハードルを下げられたことが多くの参加者を集められた要因の一つと考えられる。今後の開催においては、県内の医学生へのアプローチの検討が必要である。

2. 満足度
満足度: 79.6%が「非常に満足(5)」、20.4%が「満足(4)」と回答し、平均満足度は4.8/5と高い評価を得ました。NPSは57.41で、顧客推奨度の高さも伺えました。

3. 目標の達成度
高校生からは「総合診療科を進路として考えるきっかけになった」といった声が多く寄せられ、総合診療医キャリアの進路啓発効果があった。「勉強に取り組むモチベーションになった」「医師という職業を深く考える切っ掛けになった」という進路選択における良い影響も生じていた。医学生からは「福島の総合診療の魅力を強く感じた」という声が多く「東北地方No.1 総合診療＝福島」というブランディングを浸透させる一歩となった。「周囲を誘ってまた来たい」という次回への期待も多く、継続的な開催は福島を起点としたネットワーク形成の強化に寄与できると考える。

4. 課題と展望
①県内医学生/研修医の参加が課題となる。福島県立医科大学では総合診療の教育が正規カリキュラムに含まれており、「総合診療を学ぶ」を主目的としたイベントの魅力が大きくない可能性がある。本会のような広く認知獲得を目指す会とは別に、県内医学生/研修医を対象にした小規模かつ密度の高いイベントの企画が代替案となる。

②認知獲得とネットワーク形成という本企画の目的に資するために、継続的に「福島ならではの地域課題や総合診療の魅力」に焦点を当てた企画を検討したい。

5. 写真ギャラリー

福島の総合診療
の歩み